

教頭会報

栃木県公立小中学校教頭会

発行者 小川 順子

編集 広報部

— も く じ —

◎巻頭言	1	◎特色ある学校	6
◎第59回関ブロ栃木大会	2	◎地区だより	7
（全体会・分科会 担当者からの感想）		◎ひろば・編集後記	8

巻 頭 言

関ブロ研究大会栃木大会を終えて

栃木大会実行委員会運営統括部長 松原伸夫



11月8日（木）・9日（金）の2日間にわたり、宇都宮市文化会館及び栃木県教育会館他、全10会場において、県内外から約1,500名の参加者を迎え、第59回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会栃木大会が盛大に開催されました。「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育 ～世界を見つめ 地域とつながり 力強く未来を生き抜く子どもの育成～」をテーマに、1日目の全体会では、弁護士の清水幹裕氏による記念講演が行われ、2日目の分科会では、全28の研究提言をもとに班別協議が進められました。

講演講師の清水先生は、東京六大学野球、高校野球で審判員を務めた経験から、選手の成長から見える指導者たるものの資質について、名選手のエピソードを交えるなどして印象深く話をされ好評を博しました。また、班別協議では、継続性・協働性・関与性を念頭に置いて取り組まれた各地区の研究の成果をもとに、他地区との情報交換にとどまることなく、そこから見えてきた新たな課題について参加者一人一人が意見を述べ合い、活発な議論が交わされました。

さて、今回の栃木大会は、3年前から関ブロ栃木大会推進委員、そして栃木県公立小中学校教頭会事務局の皆様を中心に着々と準備が進められてきました。先生方は、会場に何度も足を運び、各係や地区ごとに話し合いや打ち合わせを重ねるなど、円滑な運営に向け細部にわたり念入りに準備をしてくださいました。県外参加者から「少ないスタッフでこれだけの大会運営ができるとは素晴らしい」との声も聞かれるなど、多くの参加者からお褒めや感謝の言葉をいただきました。先生方の知恵と努力、そして何よりも地元で開催される大会を成功させたいという熱い思いが、栃木大会を充実した実り多い大会に導いたものと確信しております。予定されていたすべての行事が滞りなく終了し、大きな成果を上げることができましたのも、目的意識をもち大会に積極的に参加していただいた先生方を始め、これまで労を惜しまず企画・運営に携わっていただいた役員や各係の担当者、事務局員、関係者の皆様のご協力、ご尽力のおかげと心から感謝申し上げます。

第59回 関ブロ 栃木大会

栃木大会全体会の開会行事を運営して ～チーム「栃木県教頭会」の皆様へ感謝～

全体会部長 宇都宮市立清原中央小学校 平本 宰 己

2年前に全体会部長をおおせつかった時は正直、果たして自分が「関ブロ」という大きな大会を運営することができるのかという不安とプレッシャーで一杯でした。しかし、4名の全体会部の先生方を中心に、栃木県内の教頭先生や役員の方皆さん、事務局の御協力をいただきながらひとつずつ準備を進め、無事に開会行事と記念講演会を終了することができました。

当日は晴天に恵まれ、大会に合わせて新調したオレンジ色の「栃木県教頭会」のロゴ入りスタジアムジャンパーがひととき映える中、爽やかな気持ちで、県内外1,500人も先生方をおもてなしすることができました。開会行事はもちろん弁護士、清水幹裕先生の御講演も参加者のアンケートに「江川卓さんのエピソード、審判そして教育への期待が心にひしひしと伝わってきました」と書いてあったように、教職員をやる気にさせ明日への活力をいただく内容で大好評でした。

皆様の御協力のおかげで、チーム「栃木県教頭会」の名にふさわしい素晴らしい全体会が行えましたことを改めて深く感謝申し上げます。



前日準備風景 (資料袋詰め作業)



今大会用に作製したスタッフジャンパー



全体会当日の全体打合せ風景

やっぱり教頭先生方の能力はすごい

第1分科会 大田原市立若草中学校 益子 浩之

前回の関ブロ栃木大会の分科会なんて誰も知らない。昨年度の茨城大会に参加し、その雰囲気を経験した方はいたと思うが、関ブロの分科会の運営のイメージなど全くなかった。不安だらけであった。それなのに大会は運営されていく。教頭先生方は、一人一人の役割を地道に遂行する。しかし、分科会進行計画はあるにしても、全くの脚本通りではなく自分のアレンジを加え、変だなと思うことは訂正し、オリジナルを作り上げていく。流石である。

そつなく無事に分科会は流れていく。まじめだけどちゃんと余裕もある。遊び心ももっている。第1分科会を運営してくださった大田原地区の教頭先生方の積極的な活動のおかげで分科会は成功裡に終了した。みなさんへ感謝の言葉しかない。「やっぱり教頭先生方の能力はすごい。」1つだけ心残りがあるとすれば、休憩・昼食時間にA B B AのBGMを流せなかったことである。

関ブロ栃木大会第1 A分科会を担当して

第1 A分科会 宇都宮市立国本西小学校 吉田 晋

関ブロ栃木大会の第1 A分科会は、各係の先生方のご協力により、無事終わることができました。各係の先生方のお力があったことはもちろんですが、特に、会場責任者の先生のお力がとても大きかったと感じています。私は、運営責任者であり他の先生方に指示やお願いをする立場であったと思いますが、なかなか思うようにできないことが多く、会場責任者の先生の的確な指示を得て何とか進めることができました。会場責任者の先生、各係の先生方には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

第1 A分科会で特に心に残ったことは、グループ協議の際に、初めて出会った先生方同士であるにもかかわらず、どのテーブルでもまじめにしかも和やかな雰囲気話し合いが行われていたことです。「さすが各学校の教頭先生方が集まっている。」と思いました。もう一つ心に残ったことは、私事で恐縮ですが、他にも多くの会場がある中で、自分の名前と同じ『シン』という名前の会場で分科会を進めることができたことです。

関プロ栃木大会を終えて

第1 B分科会 小山市立小山城南中学校 矢口 大

実を言うと結構軽い気持ちで引き受けた「分科会運営責任者」でしたが、係研修会や会場視察等に参加するうちに、恥ずかしながらようやく「これは大変な仕事を引き受けた」と気づきました。それでも分科会を盛会のうちに何とか終わらされたのは、細かい質問にも丁寧に御対応いただいた事務局の方々や、素晴らしいホスピタリティでご対応くださったベルヴィ宇都宮の皆様、そして完璧なチームワークとスピード感でそれぞれの持ち場を守ってくださった、第1 B分科会担当の先生方、当日に至るまで入念に準備され、充実した内容の発表をいただいた提言者の先生方、鋭くも温かい御指導をくださった指導助言の先生方等々、関わっていただいたすべての皆様のおかげです。

改めて、御協力いただいたすべての皆様に心より感謝申し上げますとともに、第1 B分科会に御参加いただいた81名の先生方にとって有意義な時間となったことを願っています。ありがとうございました。

ありがとうございました。

第2 A分科会 下野市立古山小学校 山内 正仁

ホテルニューイタヤ蓬萊の間で行われた、第2 A分科会は、素晴らしい2つの提言のためたいへん充実したものになりました。司会を担当された先生方のスムーズな進行のおかげで、質疑応答、グループ協議も活発に行われ、助言者の先生方の適切なご指導もいただくことができました。また、会場責任者・記録・受付・会場・駐車場の係として、精力的に動いていただいた下都賀地区の教頭先生方にも感謝しております。

前日準備は、ホテルでの開催であったため、机・椅子等の準備がすでにできており、短時間で終了しました。ただ、神奈川県先生の発表用データがないというトラブルがあり、私の勤務校で会場責任者の先生と、資料を印刷し綴じ込みをしました。当日は、データをもとに発表されていたので安心しました。

ホテルの従業員の方々の丁寧なご対応、昼食のおいしさなど、とてもよい会場での分科会であったと思います。第2 A分科会に関わっていただいた全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

「ありがとうございました。」

分科会司会者を担当して

第2 B分科会 佐野市立田沼小学校 立川 公重

私は、関プロ栃木大会の分科会で第2 B「子どもの発達に関する課題」(中学校)の第1提言司会者を担当させていただきました。不慣れな役割である上に、東京都からの提言を担当するという事で、提言内容をよく理解しておかなければならないこと、協議の中心とすべきことはどのようなことがよいのだろうかなど漠然とした不安がありました。

すると、6月に事務局から提言者研修会の案内が届きました。2日間にわたって提言者の方と直接、提言内容に対する検討や協議をさせていただくことができました。おかげさまで、当日はスムーズに分科会が進行し、充実した研究協議を行うことができました。

2年前から大会の準備を緻密に進め、前日準備から3日間の運営に中心となって当たってくださった教頭先生方のおかげで、私たちそれぞれの係も、自分の役割を明確に理解し、責務を果たすことができました。そのご労苦に心から感謝申し上げ、栃木県公立小中学校教頭会の一員として、栃木大会が成功裏に終了できましたことを共に喜び合いたいと思います。ありがとうございました。

上都賀研究部奮闘記

第3(1)分科会 日光市立鬼怒川小学校 高野 いく

8日11:30ファミレス集合。みんなで予約席でランチ。これからの研修・前日準備に備えた。17:00第3(1)分科会場の教育会館。部員13人全員で準備開始。机や椅子の配置、懸垂幕・立て看板の設置、控室のおもてなしセットに放送機器やPCの準備等が着々と進む。そんな中「ペットボトルが来たよ。」「え、お弁当の？いつ配るやつ?」「うおっ、資料が……ない……。」困ったことが起きる度に4階の事務局に駆け込み……。大変お世話になりました。19:00解散。そして、いよいよ9日。開会1時間後の会場内は、110人の熱気でグレーな空気に。それから閉会まで、窓を開けたり閉めたり室内環境に気を配り続けた。絶妙な司会進行で予定時刻通りに進む。提言2は、冒頭の「日光仮面はメタポのお父さんで……。」で掴みはOK。ICT環境整備という行政との連携が必要な、難しい主題であったが、和やかな雰囲気での協議は深まった。16:20片付け完了、会場を後に。そして、21:20「お疲れさまでした。」鹿沼市の創作料理店で解散。充実の2日間の終了。

関プロ栃木大会 第3(2)女子?チームより

第3(2)分科会 那須塩原市立共英小学校 鈴木 朋子

10月の地区研修会終了後、頼れる運営責任者小針先生から分科会の日程や役割、準備物について話を聞きました。その中で、全体会当日は分科会会場準備のため、全体会終了後、宇都宮市内を移動しなければならないことが明らかに!!宇都宮市文化会館からコンセーレへ……(不慣れな道……不安、不安)。私たち女子?5名は車一台に乗り合わせて一緒に移動することに。みんなと一緒に思うだけで不安な気持ちがなくなりました。笑顔になった女子?チーム、やはりもつべきものは、仲間です。

関プロ当日は、車に乗り込むとすぐに自主研修スタート!テーマは「働き方改革」だったり、「人材育成」だったり……。同じ教頭という立場で共感的に語り合い、励まし合い、宇都宮までの道中も大変充実した時間を過ごしました。分科会ではグループ協議の記録も担当し、まさかの発表の大とりも務めさせていただきました。役員の皆様お疲れ様でした。

関プロ栃木大会に参加して

第3(3)分科会 那須烏山市立七合小学校 田島 弘行

南那須地区は会員12名と、最も少ない会員数で分科会運営にあたった。私は会場係であったが、指導助言者や提言者の接待及び駐車場係も兼ねた。

本大会には『分科会細案』があり、事前に目を通してはいたが、いざ前日の準備の段階になると会場係としての1日の動きを正確に把握していないことに気付いた。弁当の受け取りの流れや昼食場所、指導助言者の接待の対応等、不明なことがあり、ホテルに確認をした。

また、当日になっても、次期開催県挨拶をしてくださる新潟県の方との事前打ち合わせの必要性に気付くなど、準備不足を痛感した。

最後に、本大会開催にあたり、企画・準備に携わっていただいた大会実行委員の皆様心から感謝を申し上げたい。ありがとうございました。大変お疲れ様でした。

分科会をとおして思うこと

第4A分科会 足利市立富田中学校 中山 次男

関東甲信越地区から来られた副校長、教頭先生方が硬い表情で第4A分科会午前の部が始まりました。最初に提言者からの発表があり、それを受けて各グループ毎に熱の入った協議が行われました。この後、約半数のグループから協議内容の発表があり、午前の部は終了しました。昼食休憩を挟んで午後の部が午前の部と同じような流れで意見交換が行われました。午後の部では各グループとも各先生方が打ち解けて硬い表情から一変して柔和な表情に変わり、午前の部以上に活発な意見が交わされました。こうした各グループ毎の協議内容を各地区や各学校現場に持ち寄って是非ともご参考にして頂ければ幸いです。

短い時間ではありましたが、この分科会での先生方がお一人、お一人の確かな関係、さらに関東甲信越地区の副校長、教頭先生方の密なる情報ネットワークが構築されたものと確信しております。

第4B分科会に携わって(運営責任者)

第4B分科会 日光市立足尾中学校 星 昌志

第4B分科会は、ホテル丸治を会場として運営いたしました。ホテル側の入江秀幸様には事前打合せから細やかな対応をしていただき、たいへんお世話になりました。前日準備の際には、本地区の教頭先生方が集合した時点で、会場のセッティングはほぼ終えており、その後の残りの準備、翌日の運営に向けての最終打合せ等も非常にスムーズに行うことができました。

当日の分科会運営においては、各担当の教頭先生方が、それぞれの係業務内容を粛々とこなしていただき、「組織・運営に関する課題」についての提言、協議等が滞りなく行われ、とても集中した雰囲気の中で本分科会が執り行われました。

本分科会にご参加いただいた教頭先生方を初め、会の運営にともに携わっていただいた先生方の熱心さと誠実さに感銘し、自分自身を省みる機会ともなりました。今後の業務に生かして参りたいと思います。

分科会司会者として参加して

第5 A分科会 塩谷町立船生小学校 亀山 雅昭

新任教頭として初めて参加する研究大会に、分科会午後の部の司会者として参加することとなり、司会次第を事前に準備するなどとても緊張しておりました。

分科会午前の部が始まりました。提言発表後の質疑応答、グループ協議も活発に行われ、グループの発表、指導助言も熱を帯び、時間もどんどん延びました。午前は昼食の時間で調整できますが、午後は県外の先生方の電車の時間もあり、終わりの時刻は厳守です。司会次第は、午前の部の司会を参考に修正したり、時間制限について加筆したりしているうちに、加筆修正の文字のほうが多くなってしまいました。

午後の部は、始まる前からグループの先生方が和やかな雰囲気でした。会が始まると、午前中以上に活発で熱を帯びた時間が続きましたが、参加者の皆様のご協力で、時刻を守って終了することができました。

初参加の大会に司会者として参加し、提言、グループ協議、指導助言では深い学びができました。このような貴重な機会を与えられましたこと、とても感謝しております。

分科会に参加して（会場係）

第5 B分科会 真岡市立大内東小学校 穂山 寛

分科会前日、宇都宮市文化会館で行われた全体会終了後、分科会会場であるコンセーレに集合し、会場係は、司会者・提言者・助言者・会場運営者などの表示をテーブルに貼ったり、プロジェクターのセッティング、マイクの調整などをしたりしました。

当日は、8時に集合し、会場確認を行いました。受付は9時からでしたが、かなりの方が9時前に来場しましたので、受付のところで来場者の案内も行いました。また、自分も含めて3名いる会場係の方と手分けして、助言者、提言者を控え室に案内し、接待も行いました。

分科会が始まると、会場の写真撮り、マイクの手渡し、お弁当の配付、最後の閉会行事の進行などがありましたが、運営責任者の方に助言していただき、また、他の役員に協力していただきながら、無事遂行することができました。大会事務局をはじめ、関係者各位に深く感謝申し上げます。

関プロ教頭会栃木大会に参加して

第6 A分科会 宇都宮市立姿川中央小学校 中山 ゆう子

今回、関プロ教頭会栃木大会に参加する機会を得たことは、副校長として日々職務に取り組む上で大変勉強になりました。

私の参加した第6 A分科会は、「副校長・教頭の職務に関する課題」（小学校）についての提言発表がありその後班別協議を行いました。

提言Ⅰの研究主題は、「実効性のある『働き方改革』を推進するための副校長の役割」、提言Ⅱの研究主題は、「人材育成を図り、学校組織を活性化するための教頭の役割」でした。2つの発表とも、実践に裏付けされた素晴らしい内容でした。今学校で抱えている喫緊の課題についての発表は、参加者の誰もが日々感じていることではないかと思われました。

また、班別協議では、時間を忘れてしまうほどの熱心な話し合いが行われ、一人職として職務に取り組む副校長・教頭にとって、このような機会の大切さを改めて感じました。

運営責任者としての振り返り

第6 B分科会 宇都宮市立田原中学校 坂本 弘志

はじめに、わたしが運営責任者の責務を進めていく上で、ご協力いただきました本地区内の副校長先生及び事務局の皆様にご挨拶を申し上げます。そしてまた、何よりも心強かったのが、「運営要項」です。これにより、準備を含め先が見通せたため本当にありがたかったです。編集担当の執行部の方に感謝いたします。

さて、分科会の当日は、申し込みなしの参加者が1名ありましたが、欠席者が1名いたため、お弁当の数など、問題なく捌くことができました。研究協議においては、どうしても一人が長話をしてしまっている（させてしまっている）グループがありました。「発言は端的に」や「参加者が等しく発言する機会を確保するよう努める」等の司会者の心構え的な表記が司会者用の台本にあればなおよかったと思います。

閉会行事が始まるまではほぼ時間通りに進行しました。しかし、閉会行事のみで時間が短縮され、15分程度早く終わることになりました。最後に、個人としては、大会宣言（案）の全文をかまらずに読み上げるのがとても辛かったです。

地域の伝統芸能「お囃子」

那須烏山市立境小学校 山口 武彦

那須烏山市には、「烏山の山あげ行事」という2016年にユネスコ無形文化遺産に登録された一大行事がある。その中で行われる山あげ祭は、野外歌舞伎や舞台背景となる「山」をあげる山あげ、リズムカルなお囃子など、見所いっぱいの祭りとして有名である。特にお囃子は、リズムのよさや華やかな音色、それをもり立てる若衆たちの熱気により、祭りを盛り上げる光景のひとつとなっている。

本校の下境地区には、「小宅流下境囃子方保存会」という団体があり、約120年の長きに渡って、お囃子の技術が絶えることなく地域に受け継がれてきた。下境地区の児童生徒は、昔からこの地域の行事や祭りと密接な関わりのあるお囃子を学び、伝統を継承してきた。しかし、昨今の少子化の影響により、活動する児童生徒が少なくなり、地域の方々からの要望もあって、平成21年度より5・6年生の総合的な学習の時間に「受け継がれし郷土芸能」としてお囃子の活動を位置づけた。活動には、毎回地域の指導者が来校し、児童たちにお囃子の歴史や技術を教え、毎年学習発表会には地域の方々から児童の演奏を披露している。さらに、年度末には上級生から下級生に技術が伝授され、地域芸能の伝統が途切れることなく受け継がれ現在に至っている。この活動を通して、児童がお囃子の技術を身につけるだけでなく、郷土芸能のすばらしさを肌で感じ、地域のよさに気づき、地域の一員としての自覚をもって将来地域に貢献できる人材の育成につながっている。



特別支援教室の充実でみんな生き生き

佐野市立石塚小学校 秋山 広美

「わかば」「あすなろ」「あおば」、希望を持ってすくすくと育ててほしい、という願いのこめられたこれら3つの特別支援学級、我が石塚小学校では、これらの学級の他2つの通級教室が設置され、170名の児童一人一人のニーズに応じた教育を展開しています。

本校は平成26・27年度のインクルーシブ教育システム構想モデル事業の研究成果を踏まえ、すべての児童に「安心感」と「わかりやすさ」を与える教育を推進しています。主な努力点は、

- ① 個別の指導計画の作成と評価・改善
- ② 当該児童に対する合理的配慮について検討・決定・検証
- ③ 関係諸機関との連携（助言や援助の活用・特別支援学校のセンター的機能の活用）
- ④ 特別支援学級の児童と通常学級児童との交流及び共同学習の積極的な推進
- ⑤ 障がいのある児童への理解と協力を得るための全職員の共通理解及び保護者・地域社会への啓発

また、特徴的な取組として、朝の個別指導「パワーアップタイム」があります。漢字の読み書きに困難さのある児童対象にはMIM（ミム）を使ったトレーニングや少人数で行うドリル練習を、計算につまづきのある児童にも少人数学習を行うなど、朝の充実した10分間により1日の学習効果を高める取組が実践されています。また、2クラスある通級教室では、本校児童の他に他校からの通級も受け入れ、言語療法を取り入れた指導や集団生活に必要なスキルを学ぶことができます。

その他様々な教育活動において、全職員の共通理解の下に一人一人への合理的配慮を図りながら、「安心感」「わかりやすさ」のある学校を目指して励んでいます。



— 専門性に基づく「チーム学校」体制の構築における副校長・教頭の役割 —

宇都宮市・上三川町中学校副校長会副会長 鈴木 則 利

今現在、実際に学校で起きている諸問題は、時代とともに、複雑化・多様化しており、学校だけでは、十分に解決できない課題が増えています。例えば、発達障害等のある生徒、外国籍の生徒・保護者、不登校や児童虐待などです。こういった対応や指導においては、専門的な知識を持った方の助けが必要です。

こうした現状の中では、教職員以外の専門家や地域の人材を活用した学校のマネジメントを強化し、組織として取り組む指導体制を整備することが不可欠で、まさに「チーム学校」体制の構築がかぎとなります。

チーム学校を機能させるために、教頭はどのようなことに気を付け、どのような組織を構築していけば良いか、2つの事例を紹介します。

A校では、各学校に1名いる**地域連携教員**が中心となり、外部人材である地域コーディネーターと綿密に連携を取り合いながら会を運営しています。教頭は、1年間のスケジュールの進行管理と地域連携教員に対する支援と助言のみを行っています。

次に教育委員会やセンターなどの関係機関との連携の実践例です。B校では、毎週1回の教育相談部会の中に、外部人材であるSC（スクールカウンセラー）とMS（メンタルサポーター）にも参加してもらい、専門的な知識をもとに支援策の検討を行い、必要に応じて外部機関である教育センターや適応支援教室などと連携します。

このような活動は、B校では、**SCM（スクールカウンセリングマネージャー）**が中心となり、担任や生徒・保護者の橋渡しをしています。B校の教頭は、外部機関との調整やSCMに対しての指導・助言、SCやMSの人事管理を行うだけです。

そして、これらの運営体制を機能させるためには、地域連携教員やSCMを学年から独立させ、授業時数の考慮等を行うことも必要になるかもしれません。



那須地区研修会報告

那須地区小・中学校教頭会長 益子 浩之

10月25日(月)、公務御多用にもかかわらず、那須教育事務所長 月井 祐二 様、那須地区小中学校長会中学校長部会副会長 月井 順一 様の御臨席をいただき、那須地区小・中学校教頭会全体研修会が開催されました。

本教頭会でも、第11期全国統一研究主題「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育」、栃木県公立小中学校教頭会サブテーマ「世界を見つめ、地域とつながり、力強く未来を生き抜く子どもの育成」の下に研究が進められてきました。今年度は、2年目に当たり、11月8日(木)・9日(金)に教頭会関東ブロック大会が本県で開催され、那須地区から2つのグループが提言者として発表しました。那須地区教頭会では、そのリハーサルとして、特に第1分科会の大田原市大田原地区A「教育目標・教育理念に関する課題 社会に開かれた教育課程」と第3分科会(2)那須塩原市黒磯地区「教育行財政に関する課題 安心・安全な学校づくりを目指して」の、提言発表がありました。湯津上中学校の江連悦子先生と三島中学校の依藤秀之先生をはじめ、研究委員の皆様には、昨年度から原稿作成等の準備を進めていただき、大変お世話になりました。当日の研修会でも有意義な協議が行われ、研究の成果を全会員で確認し、今後の教頭としての資質・能力の向上が図られました。

学校教育における新たな課題への取組が山積している中、今後も子どもたちの未来を見据え、必要な力を身に付けさせることで、我々は学校を活性化する教頭のあり方を模索していかなければなりません。本研修会にご参加いただいた教頭先生方にとって有意義なものになったことと思います。また、その夜に懇親会があり、普段口に出せないような深い話や教頭としての課題について情報交換を行いました。

最後に、私たち教頭会のために御指導・御支援を賜りました那須教育事務所長 月井 祐二 様をはじめ、各市町教育委員会、那須地区小・中学校長会、関係諸団体の皆様から感謝を申し上げます。

“対話的”の“対話”に思う

日光市立中宮祠中学校 國 廣 俊 二

学習指導要領が示す、授業改善の視点を“主体的・対話的で深い学び”としているが、その対話的に思うことがある。複数の人間が適当に話していることを会話といい、2人の人間がきちんと向き合って話すことの対話と、その違いを明確にしている。それぞれの考えを平等な立場から主張したり、互いを理解しようとして異なる思いに触れ合ったりすることが“対話”である。人は誰しも異なる。故に“対話”によって互いのどこが似ていてどこが異なるのかを探し合い、その過程が互いの理解を深めるのだと思う。

本校は標高1300mの高原にあり、校舎の周辺を点検していると、移りゆく季節を感じながら鳥のさえずりや鹿の鳴き声を聞くことがある。そのとき自分は自然と“対話”していると実感する。しかし、そこに言葉のやりとりは無い。ひんやりとした空気の中で、ありのままの自分をちっぽけだと感じながら溶け込んでいくことがただ心地よい。

授業では“対話”が深い学びに繋がるのが求められている。わかったと実感し、新たな疑問が湧いてみたり、新しい何かを発見してみたりも素敵なことだが、“対話”そのものが心地よく、そのあとで嬉しくなるような、関係性までもが改善するような“対話”ができればさらに良いと願う。

いまだ木鶏たりえず

真岡市立真岡東小学校 関 本 辰 男

私が空手道と出会ったのは高校1年の時である。以来約40年、学生や競技生活を送っていた頃ほどではないが、時間を見付けて週2回程の道場通いと稽古を続けている。骨折や裂傷は度々あったが、道というだけあって奥が深く、辞めたいと思ったことは一度もない。最近やっと、力の伝え方である発勁（はっけい）の意味が体感できるようになってきた。（正確には、若い頃からいつも分かったつもりでいたので、今後も変わらぬと思うが。）

以前、思想家安岡正篤と大相撲の双葉山とのエピソードを読んだことがある。安岡はまだ若く上り調子だった双葉山に、中国の故事を引用して本当の強さについて話した。「強い闘鶏は木彫りの鶏のように堂々としていて、周りに一切惑わされる事がない、君はまだまだだね。」と。それを聞いた双葉山は、感銘を受けて本当の強さを求めて稽古に邁進したという。やがて大横綱になった双葉山が、前人未踏の69連勝を打ち立てた後、次の対戦で負けた際に修行不足を反省し、安岡に「我、いまだ木鶏たりえず」と打電したとのことであった。

それ以来私も、空手道も生き方も木鶏のようにできたらなと考えるようになった。空手道の修行にこれで十分ということはない。これから困難で辛い場面に直面することもあるだろう。それでも、木鶏のように泰然自若としていられるよう、今日も稽古に励もうと思う。

学ぶことは楽しいこと

高根沢町立上高根沢小学校 小 池 正 夫

日本人学校に赴任していたときの話です。週1で通っていた語学学習ですが、学習意欲が一向に湧きません。なぜか、あまり必要性を感じなかったのです。でも、頑張ったことが2つあります。ゴルフの予約とサッカーチケット購入です。当時のリアル・マドリッドは、銀河系集団と言われ、チケット購入が非常に困難でした。高額な値での購入は可能でしたが、お金が持ちません。いろいろ情報入手し、まずはマドリスタ（ファンクラブ）になり、電話で予約する方法があることを知りました。電話予約はコンピュータの為、発音が悪いと認識されず、振り出しに戻ることもしばしば。それでも、諦めずチャレンジし、スムーズに予約できるようになりました。不思議なもので、苦手なスペイン語も少しは話せるようになりました。

一方妻は、娘が現地の幼稚園に入園したり、日常生活でスペイン語を使用する場面が多いので、あっという間に覚えていました。

子供たちに、「何故、勉強するの。」と聞くと、なかなか答えが返ってきません。「勉強が好き。」と聞くと、意外と「好き。」と返ってきます。何故…という問いは難しいのですね。学ぶ目的がはっきりすること。そして、そのことが楽しいと実感することが、大切だと改めて思う今日この頃です。

編集後記

昨年は記録的猛暑の後、駆け足で秋が訪れ、あっという間に冬になってしまいました。短期間の気温の変化が幸いし、関ブロ大会時には宇都宮市文化会館でも美しい紅葉の風景に心癒やされた方々も多かったのではないのでしょうか。

さて、第48号は関ブロ栃木大会分科会の運営についての感想等を中心に編集いたしました。お忙しい中、原稿をお寄せいただいた皆様方に深く感謝を申し上げます。関ブロという大きな山を乗り越えたところですが、今後も更なる研究・修養に向けて積極的に取り組んでいきたいものです。くれぐれも燃え尽きることなく。（澤畑）